

e-ビーフNEWS 北の牧場から

February 2019

十勝の樹氷と霧氷

雪が降らない、気温が高い、今年も変わった天気スタートです。積雪は例年20~30cmあってもいいのに雪が降っても風で飛ばされたり日中の高い気温で融けて土が見えてきました。積雪がないと農家が困ります。白い布団に覆われた畑は、寒さに守られ適度な湿度が保たれます。秋まき小麦の冬眠は、裸同然で一部の小麦は枯れてきました。土が風邪ひきそうです。

先日さっと降った雪が野山を覆い、木々が樹氷となって朝日に輝いていました。水墨画ですね。この樹氷より繊細なのが霧氷。川沿いの木々が朝方、川霧に覆われ枝に氷の結晶が付きます。陽が昇ったら消えてしまうのですが、この白いベールがいいですね。先日のマイナス18度になったとたんダイヤモンドダスト現象が発生。寒さと氷の物語は続きます。今週末から北海道各地では、雪まつりや氷祭りが開かれます。



活動のお知らせ

1月25日(金) 新得 道総研 畜産試験場
18年度第2回肉牛飼養技術研修会開催 25名参加



NEWSばか読み

- 農業高校 一般消費者受入 酪農教育ファーム全国11校で命の教育に貢献 1/3:学校開放
- 百貨店初売りで衣類食品福袋活発 1/3:消費者の財布のひもが緩むか
- 福岡県ミカン農家 自動運転カートでミカン搬送実験
1/4:応用拡大 高齢者応援
- 農研機構 ロボット農機具導入で作業時間4割減作付1.5倍に
1/5:使えるものなら使いたい
- 神戸ビーフ 名称適正化で飲食店実態調査開始 1/5:外食産業の見える化
- 農畜産物トレンド調査(農業新聞)で第一位に「安定」安心安全を抜く
1/6:供給が優先
- 岡山県畜産協会「和牛入門講座」開設10年 21人就農効果
1/6:地道な努力
- 鶏卵相場今年に入り100円 前年3割安 生産過剰小売休みが影響
1/8:厳しいね
- 出国税スタート 訪日客対策財源に 1/8:適正に使ってよ
- 東京食肉市場初セリで豚2割安、和牛A4は1割高 1/8:鍋物需要の変化
- 豪ドル 10年ぶりに安値 中国依存度が影響 1/8:トランプ効果
- 福岡県 ため池再利用で浮遊型太陽光発電 1/9:良いアイデア
- 19年度乳価交渉で4円アップで決着 4年ぶり値上げ 1/9:
- 津別有機酪農研究会 2年後自給有機比率100%目指し子実トウモロコシ生産拡大 1/9:頑張るね
- 英国産牛肉 30ヶ月齢未満で輸入再開 1/10:BSE後遺症解消に
- 18年訪日客最多の3100万人8.7%増 1/12:それだけ海外経済が好調か
- 財務省11月経常黒字7500億円 貿易収支は赤字5500億円2年連続
1/12:何で稼いでる
- 日立 英国原発事業中断 日本原発海外でとん挫 発注ゼロ
1/12:切り替えが大切
- 公庫、JA ゼロ金利農業融資でシェア競争 1/13:頑張るって

- 豪州産米 TPP11国産米高騰から外食産業使用増加 1/13:じわりじわり
- 外食大手 6年ぶりに営業減益 人件費増、競争激化 1/13:コスト削減影響
- ホクレン丸 2艘更新で積載2割増輸送量強化 1/14:ミルク以外も集荷
- 外食小売業で脱プラ広がる 1/14:農業も
- 新成人125万人 70年代の半分 1/15:少子化どうする
- 内閣府食安委員会 米産牛肉の月齢規制を撤廃答申
1/16:下位部位も入る
- 日本ハム 口蹄疫を20分で判定できる簡易キット開発 1/17:やるね
- EUへ鶏卵、牛乳、乳製品輸出解禁へ 1/21:メイドインJAPANの価値観
- 中国、モンゴル全土にアフリカ豚コレラ拡大 91万頭処分 1/21:鎮静せず
- 18年度あか牛の子牛相場急落2割安 肥育農家の経営悪化響く
1/22:実需相場か
- 農政審議会 有機農業の消費者の認証理解不足や販路に課題
1/22:PR不足
- 鶏卵相場 13年ぶりに100円 相場下落で農家経営圧迫
1/23:畜産相場下落のはじまり
- 首都圏 暖冬で鍋物需要振るわず野菜、鶏肉豚肉相場下落
1/23:えっ暖かい
- スーパー店舗既存店の売り上げ減 店舗過剰感強まる
1/23:まだ店閉まるの
- 22年鹿児島県共で父牛脂肪質育種価評価群設定 1/25:赤身評価群も
- TPP11加盟4カ国の輸入牛肉量急増 特にカナダ産増
1/26:じわりじわり
- 17年度再生困難農地19万haと再び増加傾向 1/26:何頭牛飼える?
- 中国18年度米国産大豆輸入量が半減1,660万t 1/26:その矛先は
- 高島屋 バレンタインにハート形ロースステーキが販売好調
1/28:送って
- 外食産業 宅配事業を拡大 1/29:流通の変化複雑
- 農林水産省 和牛精液国外持ち出しで刑事告発
1/30:ハンドキャリーがあるなん

東京直近NEWS (1/30 Shi-REPORT)

ホルス

2月相場はやや下げ基調。

頭数の出回り少ないため問い合わせは多い状況。特に年明け以降は赤身の問い合わせが比較的多く、冷凍チルド問わず、中長期的な要請が多い。逆にカタロース系の上位部位の引き合いはやや終盤。気温低下もスネ等の煮込み部位も弱い。頭数少ないために市中の在庫は少ないが、決して販売が好調な状況ではない。

経産牛

経産牛相場は若干上げ下げあるものの高値安定。出回り少ないためガリ系も高値維持しており、挽き材のコストは上昇。ホルス同様に引き合いが強いわけではないが、頭数不足からパーツ余裕はない。バラ系が加工原料で引き合い強く、赤身系は一時ほどの引き合いからは弱くなってきている。挽き材については一定需要は堅調で推移しているが、各社集荷頭数の縮小で在庫は薄くなってきている模様。挽き材在庫が薄く、枝原料コストアップしているため値上げ可能性強まる。

2019年は穏やかな新年を迎えましたが報道では明るい見通しというより、何かと「平成最後の・・・」という特集が目立ち、英国対EU、米中貿易摩擦、日口領土交渉、米朝会談等の世界情勢が日本に及ぼす影響を懸念する空気が漂っています。1年後となった2020東京オリンピック・パラリンピックへの期待感も弾みがつきません。そんな中で日本の農畜産物はTPPやEPAの関税障壁撤廃との対峙を迫られ、オリンピック選手村への食材調達基準に対応し、日本食材のすばらしさをアピール、その後の輸出拡大の足掛かりにとの思惑があります。経済の物差し一本だけでの規模拡大路線では国内の食料生産構造に歪みを生じ、海外進出に限界があります。自然現象に翻弄される農業は地球環境の保全が最重要課題です。これは一国だけではなく地球規模で対処すべき問題です。その行動計画の一つに国連の2030年を達成目標とする「SDGsの17の目標」があります。持続可能な開発目標の一つである農畜産物生産が最近のオリンピックでレガシーとなるのは、スポーツの祭典で健全な食糧確保が人類にとって不可欠なことだからです。日本の農畜産物が持続可能性を追求することは極めて重要で、これに携わる農業者は大いに知恵を發揮し、誇りを持って自然と闘って欲しいと思います。e-びーふNews62号の学術情報は以下の通りです。

1.畜産技術#764, 2019.1

1)特集: 日本畜産物輸出促進に向けた戦略と技術的対応—牛肉(井野岳司、日本畜産物輸出促進協議会)

農水省は牛肉を重要な輸出品目とし、2019年の目標は250億円です。和牛肉の品質優位性は最大の特徴で輸出拡大の技術的対応の一つに3Dフリーザーによる急速冷凍技術があります。非環流式熱交換で高湿度冷気による超高品質冷凍技術で牛肉のうま味を損なわず、東

南アジアの市場評価も高い様です。今後、真空漏れや温度管理などの不備を防ぐ現地での環境整備が重要で

2) 研究レポート: 肥育前期におけるバイパスタンパク質飼料補給が黒毛和種24ヵ月齢出荷牛の肥育成績に及ぼす影響(安部亜津子、島根県畜技セ)

黒毛和種牛肥育の生産コスト低減のために出荷月齢の短期化(29→24ヵ月齢出荷)と肥育前期(8-14ヵ月齢)に加熱大豆粕主体のバイパス蛋白質500g/日の補給効果を検討しました。バイパス蛋白質補給による発育改善は肥育全期間のDGや枝肉成績に反映し、慣行肥育への活用が期待されました。

2. 環境リサイクル牛肉協議会飼養技術研修会 2019.1.25, 道総研畜試

1) IoT機器を活用した肥育牛の事故対策(有田浩次郎、デザミス(株))
牛の首に付けたUMセンサータグという気圧・加速センサーからの情報をアルゴリズム解析して起立・横臥、採食・反芻などの行動を読み取り、異常行動の早期発見から肥育牛の転倒防止に繋げる装置の開発と応用例の紹介です。

2) 釧路市下仁々志別牧場調査報告—アンガス牛を用いた有機牛肉生産—(佐藤幸信、道総研畜試)

釧路で入手の有機飼料(乾草、おから、醤油粕、末粉、フスマなど)でアンガス牛を25ヵ月齢まで肥育し、血液成分や14-18ヵ月齢時に超音波診断の調査を行いました。供試有機飼料はタンパク含量が高く、このことがBUNにも反映しています。超音波診断画像のロース芯面積は小さいですが、通算DGIは1.00kgとしています。

国産牛 NEWS

話題提供1.「欧州諸国の有機畜産とアニマルウェルフェア関連法制との位置付け」 全4回シリーズ③

立教大学経済学部 大山利男准教授

